

# 令和3年度 事業報告

## 主な事業概要について (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

令和3年度の全国土砂災害発生状況は、昨年末で約1000件に上り、熱海や広島での土石流や地すべり等がもたらした甚大な被害の復旧作業は、今も継続しています。

ここ岐阜県においても、一般県道 松原芋島線の川島大橋が昨年5月の豪雨により、P4橋脚の被害が発生したことで、下部工の沈下及び傾斜による上弦材の座屈や上横溝の変形が生じ、即座に岐阜県と災害協定締結団体企業による落橋しないための緊急対策工事が開始しました。情報が輻輳する中、しっかりと連携を取りながら役割を果たしたのは記憶に新しいところです。国の権限代行適用以降、被災した橋梁の撤去、歩行者用の仮橋設置に着手していますが、大河川である木曾川内での早期復旧には出水期での施工も視野に入れた検討が必要で、施工に関しても河川管理者との調整をはじめ、綿密な仮設計画、施工計画および安全な現場管理等が必要なことから、早期の本復旧（新橋設置）に向けて、これまで以上に産官学の関係機関と調整を図りながら進めていくことが重要です。

新型コロナウイルス感染症の影響により、当協会の活動は制限されたものの、各委員会の活動はオンライン活用により工夫が伴ったものとなり、建設技術講習会は、岐阜工業高等専門学校にて対面にて実施しました。

岐阜社会基盤研究所の研究発表会では、『MEを活用した小規模橋梁点検と補修・対策工法』と題して発表を行い、自由討論会では、「20周年を迎えた基盤研に期待すること」をテーマにしたパネルディスカッションに参加するとともに、岐阜県自然共生工法研究会への参画による産官学の各共同研究を通じて、他分野のノウハウや知識収集、人脈の形成、技術力向上に繋がるよう努めました。

### トンネル技術委員会

#### 1. 活動方針

トンネルの維持修繕や環境問題及び新工法に関して調査研究を行い、県内業者の技術力向上を図る事と、適正工法の研究等を行う事で、トンネル施工のより質の高い社会資本整備・公共福祉の増進に寄与する事を目的としました。

## 2. 活動内容

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、感染防止を図るため、集合しての委員会活動は自粛と致しましたが、以下の活動を行いました。

### I. トンネル見学会の開催

一般国道 257 号（仮称）川上第 2 トンネルの現場見学会を開催しトンネル技術・知識のレベルアップを図りました。

### II. 建設技術講習会への参加

岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科 3 年生 40 名を対象に「社会基盤を支えるトンネル技術者」というテーマで講習を行いました。

## ダム技術委員会

### 1. 活動方針

ダム、砂防堰堤の維持修繕・新技術・環境対策等に関して調査研究を行い会員相互の技術力向上を目指すと共に、地域への貢献につながるよう活動を行います。

## 2. 活動内容

### I. 現場見学会の開催

コロナ感染対策のため、最少人数による工事見学会を実施し、2年ぶりに訪れた内ヶ谷ダム工事現場の現状把握、並びに問題点等への対策事例、新技術工法の事例等の情報収集ができ、各会員の技術力向上に繋がりました。

### II. 技術発表会への参加

コロナウイルス感染症拡大防止のため、特殊工事技術発表会の中止となりましたが、現場見学会による発表会資料の編成作成を行ないました。

### III. 建設技術講習会への参加

コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、講習会は中止となりました

が、講習会資料の再編成を行ないました。

## 下水道技術委員会

### 1. 活動方針

下水道施設の劣化が進み、自然災害が頻繁に発生している状況下、耐震対策及び維持・修繕（更生）には多くの課題があります。また、建設業の人材不足・担い手不足により技術力の低下が見られます。それらを踏まえ、新技術等を採用した施工や新技術の研究開発及び実用化を目指し県内企業に情報提供や技術力の向上を目的に活動を行いました。

### 2. 活動内容

#### I. 新技術（ICT の活用）の研究開発及び実用化に向けての勉強会

下水道管は閉鎖空間なため、事前にその損傷具合を調べる作業性は低く、思うように進んでいないのが現状です。そのなかで、新技術の研究開発および実用化を加速することにより、下水道事業における低炭素・循環型社会の構築やライフサイクルコスト縮減、浸水対策、老朽化対策等を実現し、発展するための勉強会を行います。

#### II. 下水道の維持・修繕（更生）工事に関する施工方法の検討

管更生工法や各施設の修繕方法の情報収集を行い、新技術を研究し、技術力の向上を目指します。

#### III. 自然災害に対応した、下水道の検討（地域にあった製品の模索）

県内企業で出来る新技術（製品）の施工習得のため、情報収集を行い研究し、各委員の技術力向上を目指します。また、地域にあった施工方法や製品の特長を把握するよう活動します。

#### IV. 施工・製品の新技術の開拓

新技術の習得等、新たな方向性を見出す為にも、各講習会や展示会・新技術採用の施工現場見学などに各委員が積極的に参加し、有益な情報を取得し研究テーマに活かします。

#### V. 建設技術講習会への参加

岐阜工業高等専門学校にて、建設技術講習会を実施しました。

#### VI. 委員会活動を Zoom 会議にて実施

コロナウイルス感染症の影響により、集まったの会議が実施できないため、Zoom 会議にて会議を実施しました。

### 橋梁技術委員会

#### 1. 活動方針

県内建設企業の技術力向上を目指すと共に、会員相互のコミュニケーションをはかり、情報交換を密にして、発注者に対して技術力をアピールし、地域への貢献につながるように活動しています。

#### 2. 活動内容

##### I. 技術発表会のテーマの継続

平成 28 年度より継続的に取り組んでいる『小規模橋梁の点検修繕について』5 年に 1 回の定期点検から 2 回目の点検を迎えている事を考慮した継続的なデータの収集と分析を行いました。

##### II. 研究発表会(岐阜社会基盤研究所主催)への参加

令和 3 年 9 月 3 日に開催された研究発表会で研究成果を発表しました。

##### III. 建設技術講習会への参加

コロナウイルス感染症の影響により中止。(大垣工業高校)

### 自然共生技術委員会

#### 1. 活動方針

建設工事と自然との関わりについて調査研究をおこない、自然共生に関する知識や技術の向上を目的としました。

#### 2. 活動内容

##### I. 概念「グリーンインフラストラクチャー」の考え方の理解

平成 27 年に国の施策に位置付けられた自然の持つ多様な機能を

積極的に活用した社会資本整備や土地利用、管理の概念「グリーンインフラストラクチャー」の考え方を理解し、自然共生の視点からインターネット等にて調査研究に取り組みました。

## 安全・環境委員会

### 1. 活動方針

社会基盤整備・維持管理の担い手として、労働安全・環境の改善策の提案・指導、意識の向上及び自然環境問題への対応・改善を目的に活動しました。

### 2. 活動内容

#### I. 合同安全講習会に参加

労働災害の防止についての研修を行いました。

#### II. 各種環境フォーラム等への参加

建設技術フェア2021 in 中部へ各自で参加し、安全・環境対策の知識向上を図りました。

#### III. 技術発表会、派遣講習会への参加について

発表資料の作成のみを行いました。

コロナの影響で、発表会および講習会は中止になりました。

#### IV. 安全環境パトロールについて

コロナの影響で、今年度は、活動を自粛しました。

## 企画広報委員会

### 1. 活動方針

各委員会における研究・開発の成果を研修会等の企画・開催を通じて発信することで、地域の基盤整備に貢献する社会のニーズに応えるべく活動してまいりました。

また、公益法人としての事業目的の一つとして「学校関係者及び生徒に建設技術の素晴らしさを広く学ぶ機会を創出する」ことの趣旨に則り、各委員会から建設系学校に講師を派遣し、建設技術講習会の開催をしました。

活動を行うに当たり、岐阜県新型コロナウイルス感染症対策を遵守し対応しました。

## 2. 活動内容

### I. 技術発表会（当協会主催）

毎年8月開催の技術発表会は、新型コロナウイルス感染症対策として集合開催を自粛し、資料をテキスト郵送により代替え講習としました。

### II. 研究発表会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

令和3年9月8日に開催された研究発表会へ参加しました。  
新型コロナウイルス感染症対策として、開催場所の人数制限により会場とオンラインにて参加しました。

### III. 特別講演及び自由討論会（岐阜社会基盤研究所主催）への参加

令和4年2月28日に開催された特別講演及び自由討論会へ参加しました。  
新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインにて参加しました。

### IV. 建設技術講習会の開催

1) 令和3年11月8日に、岐阜工業高等専門学校 環境都市工学科3年生40名対象で開催しました。

第1部は、トンネル技術委員会・下水道技術委員会にて講義をしました。第2部では、会員企業の若手技術者とグループディスカッション『若手技術者がホンネで答えます！』と題して、20代の若手技術者が日々の就業内容を説明するとともに、学生の質問に本音で答弁しました。

2) 令和4年1月25日に、大垣工業高等学校建設工学科2年生21名対象で開催予定でしたが、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置実施期間のため開催中止となりました。

- 3) 令和4年2月2日に、中津川工業高等学校建設工学科1年生40名対象で開催予定でしたが、新型コロナウイルスまん延防止等重点措置実施期間のため開催中止となりました。

#### V. 広報活動の実施

各委員会の活動・研究成果などを一般の方々へ広く知っていただくために、パンフレットの作成・自前のホームページの運用を通じ広報活動に努めました。